

第7回チャプレン研究会「英国におけるイスラームとムスリムチャプレン」

日 時：2023年2月21日（火）19:00-21:00

会 場：Zoomを利用したオンライン開催

司 会：葛西賢太（上智大学大学院実践宗教学研究科教員）

講演者：ムハンマド・マンスール・アリ Muhammad Mansur Ali（英カーディフ大学）

言 語：英語（逐次通訳あり）

葛西：本日はチャプレン研究会においていただきどうもありがとうございます。はじめに、本日のテーマと趣旨について簡単に説明させていただきます。本日のレクチャーは「英国のムスリムチャプレン（Muslim Chaplain in the UK）」というタイトルでお話をいただきます。

みなさんが「イスラーム教国」という言葉でイメージする、イスラームを国是とする、イスラーム教徒が大多数を占める国があります。サウジアラビアやエジプトなどを思い浮かべるかもしれません。そうした国ではない西欧で、現代的な問題に、イスラームはどのように向き合うのか、ということが本日の大きなテーマです。

伝統的なイスラームの先生（イマーム）が、現在、様々な限界に直面しています。それを埋める形でイスラームのチャプレンという人たちが多く誕生してイギリスではすでにこのイスラームチャプレンの人たちが公務員として働く時代がきています。そのイスラームチャプレンの実際の活動について本日はマンスール・アリ先生にお話をいただきます。

ここで少し用語の紹介をさせていただきます。

✓ Imam: イマーム。お坊さんに近いですが、宗教専従職ではありません。日本の僧侶と異なるのは、むしろ先生や学者に近いということです。イスラームやコーラン（クルアーン）について博識で尊敬されています。

✓ Chaplain: チャプレン。さまざまな施設や環境で傾聴し助言し、儀式を行い、時には一緒に祈ります。もとは、キリスト教においてこうした活動がありました。現在では仏教やイスラームやその他に無宗教のチャプレンがあります。

✓ Muslim: ムスリム。イスラーム教徒の男性。

✓ Muslima: ムスリマ。イスラーム教徒の女性。

次に、本日ご登壇いただくマンスール・アリ先生についてご紹介いたします。

ムハンマド・マンスール・アリ先生 Introducing Dr Muhammad Mansur Ali

- カーディフ大学 大学院 歴史・考古・宗教学研究科
 - イスラーム学講師
 - カーディフ大はイギリス西部の「ウェールズ」にある著名国立大
 - もともとハディース(イスラーム法の主要分野の一つ)と、イスラーム実践神学の研究
 - ムスリムチャプレンについての共同研究(2008年-2011年)に参加
 - 現在はイスラームの社会実践や、臓器移植など生命倫理の現代的課題も研究

本日の流れは次の通りです。今、私が趣旨説明をさせていただきましたが、このあとマンスール・アリ先生のレクチャーに入ります。このレクチャーは英語で行われますが、逐次通訳をお願いしております。そして、すでにいただいた質問をもとに質疑応答を行う予定であります。

それでは、マンスール・アリ先生にお回しいたします。

* * * * *

Mansur: Thank you very much everyone for joining the evening very cold in your case. We have just started 10'clock in the morning.

みなさま、本日はご参加いただき誠にありがとうございます。日本は今、夜で非常に寒いと聞いています。こちらは朝の十時で一日が始まったばかりです。夜遅い時間にご参加いただきどうもありがとうございます。

This lecture presentation webinar is “Understanding Muslim Chaplaincy”, some of you may recognize this name book that came out of our project of Muslim Chaplaincy. Some of you have already studied. I’m not good of repeat which was mentioned in this book. I’ll dig more Muslim Chaplaincy. I’ll take more examples out of which was not found in the book, which was part of the Chaplaincy project to look at the scheme today.

こちらが本日のウェビナーのタイトルです。「ムスリムチャプレンを理解する」です。皆さんの中には既にお気づきかもしだれませんが、我々が書いた Understanding Muslim Chaplaincy という本がありますが、これはムスリムチャプレンに関して我々が行った研究に基づいて書かれた書籍になっています。ただ、本日お話しするのは、この本に記載されていることを繰り返すのではなく、この本ではカバーしきれなかった具体例なども紹介しながら

らお話をしたいと思います。

Some of you may have already seen this book. If you haven't seen it, I briefly introduce authors. Professor Sophie Gilliat-Ray, and myself Mansur Ali, and Christian Stephen Pattison. Professor Sophie Gilliat-Ray is social scientist, myself, I am Imam and Theologian, and Stephen Pattison is one of the leading scholars in Christianity something called practical Theology.

こちらが執筆をした本です。ご存知の方もいると思いますが、ご存じでない方のために執筆者について簡単にお話をします。書影に名前が記載されていますが、ソフィー・ギリアー・レイ教授と私マヌスール・アリともう一人はキリスト教徒のステファン・パティソン教授です。こちらの三名で執筆しました。ソフィー教授は社会学者です。私はイマームと神学の研究を行っています。ステファン・パティソン教授はキリスト教と、特に実践神学のところで著名な研究者の方です。

So, the very first we need to understand is;

- ✓ WHAT IS AN IMAM?
- ✓ WHAT IS CHAPLAIN?
- ✓ MUSLIM RELIGIOUS PROFESSIONALS

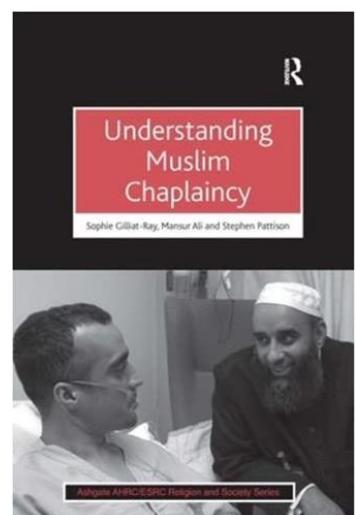
まず私たちが理解しなくてはいけない重要な点としましては、「イマームとは一体何か」「チャプレンとは何なのか」「イスラームの宗教の専門職」についてです。

“Imam” is an Arabic word which means “to be in the front”. Imam is called as Imam because the Imam is leading the people.

イマームとはなにかと言えば、「イマーム」という単語はもともとアラビア語で「前にいる」ことを意味します。文字通りイマームは人々の前にたって先導する存在だということです。

The word “Imam” because it means “to be in the front”, anybody who goes in front, anybody who leading can also be called Imam. However, in the religious sense, Imam has two main meanings, 1. The political leader as the president, the king, the Khalif, 2. For the person who leads the prayer in the mosque.

イマームという言葉自体は、「前にある」ことを意味しますので、例えば誰かの前に立っている人あるいは誰かを先導している人で



あれば一般用語としてイマームと呼称される存在ではあります。ただ、イスラームの宗教の文脈で考えますと、「イマーム」には特別な意味があります。一つ目は、政治的指導者という意味です。例えば国の大統領でしたり、国王やカリフなどの存在がイマームと称されます。二つ目の意味としましては、人々の祈りを先導する人を指します。

Sometimes the word Imam is also used for people for neither political leaders, nor leading the prayers in the mosque. In the sense Imam is used for religious scholar. And he has large following, for example, in America we have Imam Hamsa Yousef, in classically Islam, and Abu Hanifa, he wasn't a mosque Imam, and he wasn't a political leader because of his knowledge, people saw him to be a figure that they can follow.

一方で、政治的指導者でもなく、モスクの中で祈りを先導する方ではなくてもイマームと呼ばれる人はいます。それは、宗教学者として多くの弟子がいるような方をイマームと呼ぶことがあります。具体的には、アメリカのハムザ・ユースフ氏、あるいはアブ・ハニファ氏がイマームとして呼ばれます。これらの方々は政治的指導者でもありませんしモスクの中で祈りを率いる方ではありませんが非常に多くの方から尊敬を集めている宗教学者なのでイマームと呼ばれています。

Carrying on with the role of the Imam, the mosque Imam is the paid position and the mosque Imam who is leading the prayer is only can a male. Only a man can lead the follower. Now, there are some kinds of liberal feminist are Muslims who are pushing the boundaries. And they are saying that women should also be Imam. The mainstream Islam does not accept that. イマームの役割についてもう少し詳細にお話していきます。モスクにいるモスクイマームの方々は賃金を得てイマームとして働いています。モスクイマームとして祈りを先導できる方は主流のイスラームにおいては男性のみに限られています。リベラルでフェミニストのイスラームの信徒の中にはこうした垣根を越えて女性もモスクのイマームになれるように働きかけています。

I know that I'm laboring on the concept with the Imam, because that really directly to chaplaincy, so I need to understand all the different nuances related to Imam, so the which is shows the differences between that and chaplaincy.

私は先ほどからイマームのご説明ばかりをしていますが、これは次にお話するチャップレンの考え方方に深くかかわっているからです。イマームについて詳細に説明していますが、これは是非皆様にイマームの様々なニュアンスについてしっかりと理解していただきたいという背景があります。では、イマームとチャップレンがどう違うのかというところをお話していきたいと思います。

In addition to the role of the Imam being to leading the prayer, the Imam also does counselling and pastoral care, so somebody might be in trouble, the marriage might be in trouble, they come Imam, they ask for the solution, somebody might have the problems with their children, children are taking the drugs, they come to the Imam to ask for spiritual healing. So, people come to the Imam for all kind of problems.

イマームの役割についてもう一つお話をしましょう。イマームの役割として祈りを率いるというところはお話をしましたが、それに加えて信徒や改宗の方々の相談に乗る、カウンセリングをする、あるいは心のケアを提供する役割を果たします。具体的には、結婚生活のことで何か悩みを持つ人に対して解決策を提示し、子供が何か問題を抱えている、ドラッグに関わっているなどの問題がわかった際にイマームの側から助けや靈的な癒しを提供する形でケアを与えることもイマームの役割の一つです。

Imam in his role as an Imam and be quite prescriptive. What I mean by "prescriptive" is he can tell people "do this", "don't do that" and people will respect him and value his opinions.

ここでイマームの役割について強調したいのは、イマームが基本的には規範的な言動をするということです。どういうことかというと、イマームが「あれをしろ」「これをするな」というような形で規範を述べるということです。そこで発した言葉に対して敬意を受けて価値を認められるということです。

We will talk to discussible Imams temporarily, go on to chaplaincy.

ここでイマームの話を終えて、チャプレンにうつりましょう。

A chaplain is primary Christian word, not in Islam.

チャプレンという言葉は、もともとキリスト教の文脈から来た用語です。イスラームにおいてはもともとあった用語ではありません。

Ideally, in Christianity people should be going to the church to get in blessing and grace. However, for many people who are ill, who couldn't go to the church or people who in military or ships who couldn't go to the church, so it was decided that if people can't come to the church, the church go to them, this is kind of the philosophy of behind the chaplaincy.

キリスト教の信徒の方は基本的に教会に行って祈りを捧げてその恩寵を受けるということが理想かと思います。ただ、人によっては病に伏せてしまったり、軍に勤めていたり、船に乗っていて教会に行けない状況があるかと思います。その際にはキリスト教の信徒の方々は自分たちで教会に行くことはできませんので、逆に教会のほうが信徒の方々のほうに向く、というものがチャプレンの背後にある考え方です。

Now, in the UK, because Muslims have been since 1940s and you get Muslims good and bad, and you have Muslims get ill, and then they go to a hospital, you have Muslims also criminals and they go to jail, they started demanding, so this people in the prison. They started demanding certain religious rights and Christian Chaplain was there, but there was no Muslim chaplain for fill their demands.

イギリスに話を移しますと、イギリスにおけるムスリムは1940年頃から数多く来ていましたので、数多くの良いことも悪いことも経験していました。イギリスにいるムスリムの方で病気になって病院に行く方や、罪を犯して刑務所に入った方もいます。そうした中で、特に刑務所にいるムスリムの方のなかから、宗教的な権利としてムスリムのチャプレンを要望する動きがあったことがきっかけになります。刑務所にクリスチヤンのチャプレンはおりましたが、イスラームのチャプレンはいなかったので、この動きが見られるようになりました。

So initially what happened was the prison services and hospital etc., didn't know what to do, so they went to the Muslim community and basically search is there anybody who in the community, who can come to the prisons, to the hospitals, to answer some questions, and is there anybody who can lead the prayer especially the Friday prayer.

病院や刑務所から要望があってイスラームのチャプレンを手配できないかという動きがありました。そうした中で、もともとどうしたらよいのかわからないという状況がありました。ですので、イギリス側がムスリムのコミュニティにコンタクトをとって、誰か、刑務所や病院に来てそこにいるイスラームの方の質問に答えられる人はいませんか、チャプレンとして祈りを率いてくれる人はいませんか、特に金曜礼拝の際に祈りに応えてくれる方はいませんかということをムスリムコミュニティの中に見いだそうとしました。

Obviously, these people are primally all men. Because in the early 1980s, women were not seen in the public, in the Muslim community a lot, so it was primary men. That for people who responding the call, women both some of them was playing as Imams, Imams are not to speaking English, some of men were just kind of local businessmen, who just knew how to do English, speaking English and they were quite prominent in the community, because they had business on their money, and they were the ones who responded first.

そのような中で、最初に反応したのは男性です。1980年代頃はムスリムコミュニティのなかでもまだ女性が公の場に出ていたわけではありませんでしたので、基本的には男性が最初に反応したということになります。ただ、当時のイマームの中には英語を話せない方もいました。そうした中で、こうした要請にはじめに応えたのが現地でビジネスをしている男性の方です。そのコミュニティの中で著名な存在で、事業を行っていたため英語も喋れるよう

な方々がまず初めにこの要請に応えました。

Around 1982-1983, what happened is that the Imam praying the center, Dar al-Ulum, the house of knowledge, they start producing the first graduate Imams who are born in Britain and are able to speak English, local language, and these graduating Imams who then start going to the prisons and hospitals as workers who can lead prayers etc. That's we start seeing kind of the professionalization of Imams, moving away from mosques to these secular settings. 1982 年から 1983 年ごろに何があったのかと申しますと、当時のイマームをトレーニングする学校「ダール・アル＝ウルム（知識の家、と訳すことができます）」から卒業生がいました。イギリスで生まれ育って英語を話すことができる方たちがイマームになるためのトレーニングを終えて、イギリスの中にでてきたというタイミングでした。そこでイマームとしてのトレーニングを受けた男性たちが刑務所や病院に行ってチャプレンとして祈りを率いるようになりました。つまり、プロフェッショナルとして働くようになりました。モスクから離れて、そうした世俗的な場所において動くようになりました。

While stay Imam, works 100 percents really just settings, the chaplain works secular settings. And that for the mosque Imam also has going into the prisons and hospitals as chaplain, is working in two very different environment as I mentioned before, Imam can tell people "do this", "don't do that", the chaplain was not allowed to be descriptive chaplain like doctor, can kind only tell people what options are without having to say "you have to do this" "you don't have to do that", it's completely different environment.

従来のイマームは、100 パーセント宗教的な場所においてるべきことをする存在でした。それに対してチャプレンとしての仕事はより世俗的な舞台において自分たちのやることをする形です。これまでモスクのイマームとして動いていた方たちがチャプレンとして刑務所などで働くようになると、全く異なる二つの環境のなかで様々に対応していかなくてはならない状況になりました。具体的には、先ほど申し上げました通り、イマームとしては規範的に宗教的な場所において「あれをしなさい」「これをしてはいけません」という形でメッセージを伝えていたのが、チャプレンとして働く場合には医者のように選択肢を示す形でコミュニケーションをしなくてはいけません。ですので、イマームとして異なる環境で働くことが求められてきました。

The Imam who understood the different context, under chaplaincy in secular environmental and he needs to be different from how he acts in a mosque, survived the chaplaincy. And the Imam who couldn't make difference between the two environments, did not survive. We'll see make example later.

こうしたなかで、イマームとしてこれまでモスクの中で働いてきたこととは全く異なる文

脈がチャプレンとしての仕事の中にあるのだと、世俗的な環境の中で全く違った形で動かなくてはならないのだと理解したイマームの方々はチャプレンとしての使命を同時に果していくことができるようになりました。それに対して、モスクイマームの中でも自分の使命とチャプレンの文脈で自分がなにをするべきであるのかを上手く区別することができなかつた方々はチャプレンという仕組みの中では継続していくことができなくなってしまった。これは具体的にどういったことを意味しているのかについては後ほど詳細にお話をいたします。

Because the hospital, the university, the prison, are secular environment and this is where the chaplaincy centers but, it would be gender discrimination if the job description only needs the male chaplain. They couldn't do this because that was gender discrimination. So, when they advertise the Muslim chaplain. As a result of this, Muslim educated female, some of them don't have training, also started to apply to the job and they also became chaplain as we said previously, Imam in the mosque is only the male, but now we have in the secular environmental we have female chaplains, and therefore, to call them Imam that doesn't really fit because Imam is the name for a male.

病院、大学、あるいは刑務所などの世俗的な環境でチャプレンとして働く際にチャプレンとしての職を募集する際に男性のチャプレンのみ募集すると性別に基づいた差別になります。ですから、こうした仕事の募集の方法はできませんでした。なので「ムスリムチャプレンを募集します」と記載することになりますが、するとムスリム教育を受けた女性やトレーニングを受けていない女性の方もチャプレンとして働くことができるようになっていきました。先ほど申し上げましたが、モスクにいるイマームは男性に限られていますので、こういったチャプレンとして女性が働くことができるようになりました。こうなるともともと「イマーム」は男性に限って使われてきた用語ですので、チャプレンを「イマーム」として呼ぶのは混同してしまうということで「チャプレン」と「イマーム」がそれぞれ区別されて呼ばれるようになってきました。

Where to necessary for Imam in the mosque to have theological qualification, qualification is theological training. Even today, in some place chaplaincy that requirement is not for Muslim chaplaincy, so somebody who says that he knows better about Islam, and has big qualification, and Muslim Chaplain doesn't need to be an Imam. So, then what happened is in chaplaincy we get different people, we get male trained mosque Imams, we get female trained scholars, but we get female who are not trained, and we get male who are not trained. So, to call all of them Imam is incorrect, because Imam that have means to somebody who get theological trained.

こういったなかで、モスクイマームという立場になるためには、これは神学上のイスラームに関するトレーニングを受けたということが必要ですが、今日においてもチャプレンになるためにはこうしたイスラームに関するトレーニングを受けることは必須ではありません。なかにはイスラームに関してある程度の知識があるという方、必ずしもイマームでなかつたとしてもチャプレンになることができるという現状があります。そうすると、チャプレンが多様化したということです。ムスリムチャプレンの中には男性のイスラームの教育を受けたモスクイマームの方が働くこともあれば、女性でイスラームの教育を受けた方（これはイスラーム学者の方）がチャプレンとなる場合もあれば、男性女性問わずイスラームのトレーニングや教育を受けなくてもムスリムチャプレンとして働いている方もいます。そういった方々すべてをイマームと呼んでしまうと不正確になってしまいます。イマームというのは基本的にはイスラームに関するトレーニングを受けた方の呼称ですので、「イマーム」と「チャプレン」の間にずれが生じていったということです。

Muslim chaplain then becomes an umbrella term under which all of different types of people can be substitute.

こうして「ムスリムチャプレン」は非常に間口の広い言葉になっていったということです。様々なタイプの方々を含めるような包括的な単語になっていきました。

But some people object this, because chaplain is very Christian, I mean not Muslims, I'm talking about secular environment, some people basically thought that this is very Christian, and we need to have more neutral language. Some of them are specifically hospital settings, some of the term "spiritual carer", "spiritual adviser" or "pastoral care worker".

なかには、こういった用語の使い方に反対される方もいます。「チャプレン」という言葉は非常にキリスト教色が強いもので、ムスリムとは違うものだと思われる方もいらっしゃいます。そうした中でもう少しキリスト教色が強くない中立的な用語を使うべきではないかという主張もあります。そういったことも背景にありまして、例えば病院に関しては顕著ですが、「チャプレンシー」という言葉の代わりに「スピリチュアル・ケアラー」「スピリチュアル・アドバイザー」あるいは「パストラル・ケア」という言葉が使われることがあります。

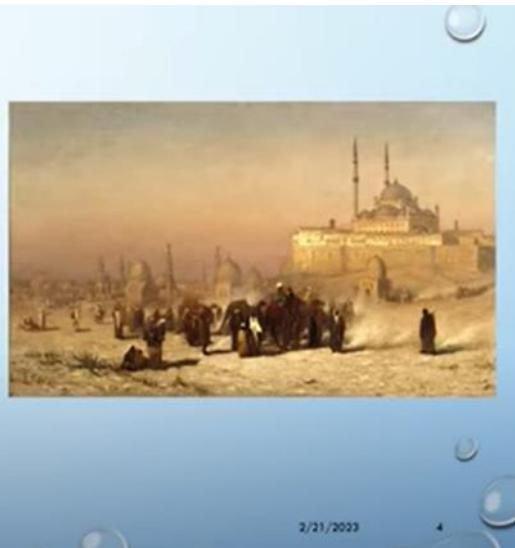
To capture all of this differences between the trained Imam, the male or female parttime etc, my colleague professor Sophy she coined A terminology called "Muslim Religious Professionals". Any Muslims who are working as a part of religion in the professional is call "Muslim Religious Professionals," which is an umbrella term which captures everyone.

このような様々な用語や概念には種類がありますので、イマームか否か、男性か女性か、そういった様々な概念を包括するような形でソフィー教授が考えたのが「Muslim Religious

professionals/ムスリム宗教専門職」という単語を包括的な用語として使用することを提案しています。これについては専門職上の働く場所において宗教に携わって活動されるかたをこのように呼称しています。

• With their own existing faith within god. It's about restoring that faith that they have and for a slight moment they are not lost, but there's a shadow, it's cloudy. It's like you're on the motorway and you think, am I on the right route or not? You're still travelling until your satnav says, take the next left in 200 yards or something and you think, yes, I am on the right route and I see that I am that satnav.

• (HOSPITAL CHAPLAIN)



2/21/2023

This is from our project one of the chaplains when we asked to define yourself, what the chaplain is, what the chaplain do. What the hospital chaplain define himself rather than defining himself as to what he does, so Nomaguchi-san will translate the sentence on this slide.

こちらのスライドに示しているのが、私たちのプロジェクトにおいて、病院で働いているチャプレンの方に直接質問をしました。チャプレンとは何か、というところを尋ねました。こちらにその方がおっしゃったことを、そのまま記載しています。ここには、具体的にチャプレンとしてどんなことをしているのかということが書いてありますので、読み上げます。こちらに書いてあることは、

神の中に信念が存在し、自身が抱いている信仰を回復してそれが失われないようにすることを保とうとしている、時には生きている中で影が差したり曇り空になったりすることもあるので、例えばイメージしていただきたいのが、車で走っていて自分が正しい方向を走っているのかと不安になることもあるかと思います。そうした中で例えばGPSなどが知らせてくれるまでに次の200ヤードくらいまで走らなければいけない、その200ヤード先で新たな指示をもらうでしょう、そうした中で自分は正しい道を進んでいるのだと判断するでしょう。私がチャプレンとして考えているのはまさにチャプレンはGPSのような形で道案内をしている存在なのだとということです。

You can see immediately, the difference between the role of the Imam and the chaplain. The Imam basically tells people if you don't do this, go to the final hell. That chaplain is more like

a GPS. This is the way, but people know really need to follow us up, small guide.

イマームに関しては、こうしないといけない、ああしないといけないという形で規範的な指示を出すということを申し上げました。それに対してチャプレンの役割としてはむしろGPSのような形でガイドとして道案内をしていくことで役割を果たしているということです。

• I'm not here to invite; in this place you're not here to give da'wah [preach], i'm not here to propagate the deen [religion], i'm here just to be human for anybody who has a need to talk about whatever and if that involves talking about allah subhanahu w ata'ala then fine, we'll talk about allah subhanahu wa ta'ala. So, being responsive to the human aspect, I think that is hundred percent islamic.

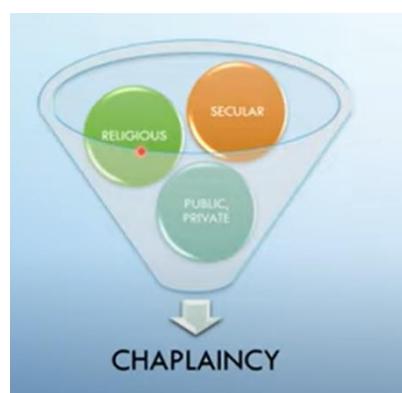
• (MUSLIM HOSPITAL CHAPLAIN FROM YORKSHIRE, INTERVIEWED ON 27/01/2009).

This slide also just another chaplain, this chaplain said I'm not here to invite people to Islam, I'm not even to preach people Islam. The mosque Imam normally preaches people, here, the Muslim chaplain says I'm here not to preach, to talk people. This is chaplain stance different to Imam position and secular chaplaincy.

このスライドもチャプレンの方から聞き取った内容になります。この方がチャプレンとしてされているのは、イスラームの布教や説話をしているわけではないと言っています。それに対してモスクではイマームが説話をしますからそれとは違っていて、あくまでチャプレンの方はあくまで人々とお話をすることを役割として述べています。これがまさにイマームの方々とチャプレンの方々が果たす役割の違いを表したものだと思います。

The chaplaincy is basically among the nation, three kinds of contradictory areas. Now obviously the first one is religious, because if we don't have religion, the chaplain is no different than secular counselling or psychotherapies like that.

こちらの図は、チャプレンに関して矛盾するような三つの要素が組み合わさっていることを意味しています。この矛



盾するような要素の一つ目が宗教的な要素です。もちろん、チャプレンにおいて宗教的な要素は必須です。これがないと宗教に関わらない普通のカウンセリングや心理学分析と同じ形になってしまうので、ここがチャプレンとして異なる要素です。

If chaplains, he all religion is a hindrance. The running of the institutions that they will just close it down. A socialist?

Also, chaplaincy functions in secular institutions and the chaplaincy primarily that, so the secular institution runs smoothly. If the chaplain on religion is a hindrance, who the running of the institutions that they will just close it down.

そして二つ目は世俗的という要素ですが、これが意味するのは、チャプレンは世俗的な機関においてその機関をスムーズに動かすために存在しているということです。もしこのチャプレンとしての役割や活動が、その機関の邪魔をしてしまうのであれば、そのチャプレンの存在はそこから追い払われてしまうでしょう。

But also, the public and private event, primarily in mainstream tradition, religion is seen as a private affair. Islam just not seen as, just seen Islam as a private affair. However, chaplaincy which kinds of boundary between of public and private.

もう一つの要素は、私的なところと公のところです。基本的には主流や伝統的には宗教は私的なものだと考えられがちかもしれません。ただ、少なくともイスラームにおいては、あるいはムスリムの方にとっては完全に私的なものではなくあくまでイスラームは自分の生き方に関わっていることだからです。チャプレンの働きについて言えることは、チャプレンとして動くことによって公と私的なところの境目がぼやけていくことになるということです。

Sometimes chaplain who don't understand the difference between public and private, takes something in trouble.

公のところと私的なところの区別を上手く理解することができないチャプレンは何らかのトラブルに直面することがあります。

For example, there are two people in the Muslim community who did not get along, they had fight, and one of them go on prison.

具体的には、ムスリムコミュニティの中に仲の良くない二人の人間がいたとします。その二人が喧嘩をしてそのうちの一人が刑務所に行くことになりました。

One in the prison, one outside who didn't go to prison, and the court ordered that he is not allowed to come anywhere near to person who is in the prison because there's an order against

them come together.

一人は刑務所に入り、もう一人は、裁判所からの命令でもう一人に近づいてはいけないという命令が出ました。

The Muslim chaplain was a chaplain in the prison. But he was also an Imam in the mosque, and what he did was he managed to convince the person outside, who was not in prison, saying that it's forbidden in Islam to build friendship. You should go on make up with your brother in prison.

この事例の場合、ムスリムチャプレンとして働いていた方が刑務所のチャプレンであったと同時にモスクにおけるイマームでもありました。そして、チャプレンでもありイマームでもあったこの男性がなにを言ったのかというと、刑務所に入っていない相手に対して、イスラームの教えにおいては友情を壊してはいけないのだから刑務所の中にいる兄弟のもとに行つて仲を修復するようにと言いました。

When the outside person went to meet the prisoner. They had a fight, they had a very big argument and, as a result of which the prisoner complained against their chaplain for try to reconcile between them.

そしてその結果として、刑務所に入ってなかつた方の一人が刑務所に入っている人に会いにいきました。その時に何が起こったのかというと、また激しい喧嘩をしました。その結果、刑務所に入っている信徒の人がチャプレンに対してなぜ和解させようとしたのかと不満を述べました。

Now, Imam who's the chaplain, he was in the mosque leading the prayer, and police came to the mosque. They came into the mosque, and they arrested the Imam in front of everyone. People were surprised what was happening and Imam might also say what was happening. And the police said that you have broken the law by getting these two people together because there was a court order that they can't meet.

その後に、イマームでもありチャプレンでもあった人がモスクで祈りをあげているときに警察がやってきて、そのイマームを逮捕してしまったのです。それをみんなの前で行ったので、参加していた方も非常に驚いていました。イマーム自身も非常に驚いていて、何が起こったのだと警察に尋ねました。すると、罪状としては裁判所の命令を破って会つてはいけないと言われていたのに刑務所の外にいる方に対して会いに行きなさいと言って法律違反をした旨で逮捕をされてしまいました。

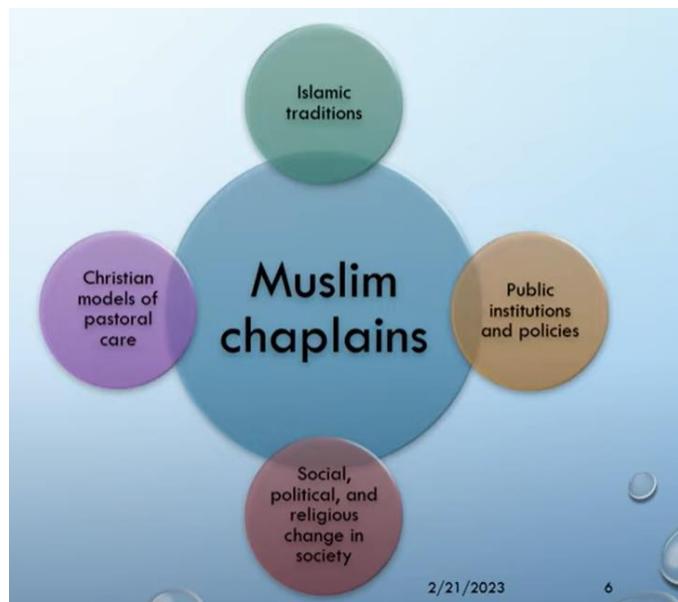
The Imam, still the chaplain, explained to the police that, look, we are Muslims and Islam were not allowed to break friendship with one another. And that's why I did this. I had no other

intention. But the police explained you still have to respect the law because you didn't know this time, we will let you go. But if something looks like this happens again, we will come and arrest you and prosecute you. So, this is an example where the imam didn't who's the chaplain as well? Couldn't understand the blurred boundaries between the public and the private and got himself into trouble.

そのイマームは次のように言いました。イスラームの教えに基づいて友情を壊してはならないと言ったのだというと、警察は、それは関係ない、法律を破ってしまったから逮捕をするのだと主張しました。今回は法令違反を知らなかったということで見逃すけれどももし次に同じことを繰り返したら逮捕しますよといって警察は帰っていました。これが具体例としてお話をしたことですが、チャプレンでもあったこのイマームは公私の境目が曖昧になっていくところを上手く区別できず理解できなかったことからトラブルに直面したということです。

Some of the roles of the Muslim chaplain informed by the Islamic tradition. But also, the roles are informed by public institutions and policies like the chaplains, just because they are Imams or Muslim leaders cannot go against the rules and regulations of the institution. Similarly, they take from the social, political, religious change in society and some of their practises is also modelled on Christian pastoral care traditions.

ムスリムチャプレンとしてどういったことを意識し守るべきかということをまとめたものが次の図になります。ムスリムチャプレンとして意識しなければいけないことが書かれていますが、もちろんそれだけではありません。右のほうを見ていただくと、チャプレンとして所属している公的機関あるいは警察などが定める法令や規則に関して適切に守っていかなくてはなりません。それから下の要素としましては、社会的、政治的、宗教的な変化に対してもよく気を留めておかなくてはなりません。それから左のところにも記載はありますが、チャプレンの考え方はもともとキリスト教からきているものですので、キリスト教における牧会、パストラル・ケアの提供の仕方からも学ぶことができるはあるかと思います。



DUTIES OF A CHAPLAIN



What are the duties of the chaplain? The chaplain has a duty and responsibility to 3-4 different areas, the clientele. So, the clientele is in the prison the prisoner in the hospital is the patient in the university is the students. Then the staff of those institutions, but also the chaplain has a responsibility to the institutions of the business, but also the chaplain has a responsibility on themselves as well.

こちらではチャプレンが果たすべき 4 つの責務についてまとめています。4 つの領域にまたがっている

ことがわかります。一番上のところにあるのは、「クライエンテル」と記載がありますが、これはチャプレンとしてサービスを提供するにあたって、そのサービスを受ける相手だと思ってください。これは刑務所においては服役されている方々、病院においては患者さん、大学においては生徒の方々です。それから右のところにいきますと、チャプレンとして勤めている機関で働いている職員の方々に対して果たすべき責務もあります。下のところは「ビジネス」と記載がありますが、これはチャプレンとして勤めているところの機関それ自体、行っている事業それ自体に対して果たすべき責務があるということです。そして左のところには「自己内省」と記載がありますが、自分自身に対しても果たすべき責務があります。

Now obviously all types are tensions between all of this.

もちろんこの 4 つの間にはある程度の緊張関係・トレードオフのようなものも存在していると言えましょう。

Primarily the major part of the chaplain's job is around the client, the patient the prisoner the student.

上のところの「クライエンテル Clientele」の患者や服役されている人、学生に対しての役割が主要な責務といえます。

If I was to give you an example about staff. The chaplain may inform the staff of pray times. In the winter, the pray times is different and in the summer pray times are different. So, by

informing the staff members who are involved in drawing timetabling of movements. They say to prisoners, that's how they can inform the staff.

例えばスタッフ職員の方に対して、どういった責務や仕事を提供すべきなのかというところを具体的にお話しますと、これは、情報を適切に伝えるというところです。例えば、夏と冬で祈りの時間が異なることがありますので、そうした違いや事情に基づいて、囚人、服役されている方の移動の時間を調整することをチャプレンの側から伝えることがやるべきことの一例です。

That's you want to example we can give many. So, an example of a business will be emerging that a chaplain is in the Ministry of Defence. Defence is the army. If the chaplain, the chaplain has a responsibility to the business. So, for example if a Muslim chaplain wants to talk to the Muslim army personals in the British Army. And he was to convince them, that it is wrong in Islam to kill people. As a result of which they quit their job, the chaplain will be fired. So that chaplain also has to understand that he has a relationship and responsibility to the business and sometimes there is a tension between those.

非常に数多くの例がありますが、あくまで一例として、今スタッフに関してのチャプレンとしての責務お話をしました。そして下の方に移りましょう。「ビジネス」と記載されていますが、これは自分が所属している機関の果たすべき目的に資するかどうかというところです。具体的な例としてこちらであげるとすれば、英国防衛省、あるいは英國軍に対してムスリムチャプレンとして勤めていたとしましょう。そうすると、英國軍におけるムスリムの軍人に対して、イスラームでは人を殺害することは禁じられているということを強く教ええたとすると、そういったムスリム軍人の方は、英國軍をやめてしまうと言うこともあるかもしれません。その結果として、チャプレンは解雇されてしまうでしょう。ここで意識するべきは、チャプレンの責務というのは、自分が所属している機関、組織における目的、あるいは果たすべき責任や役割を意識しなくてはならないということです。それが、自分が行うことと伝えることに関する程度の緊張関係や他と矛盾や衝突が生じる場合もあります

In our research project we found that Muslim chaplain in different sectors in NHS health service, higher education, universities and the prisons. They use Islamic scripture and sources, but they use them, it was quite interesting to see that different sectors use the text of the Quran. And also, the life of the Prophet of the Hadith, differently.

我々の調査プロジェクトの中で、こちらに示したようなところで調査を行ないました。NHS (イギリスの健康保険を運営している機関)、それから高等教育機関ということで、大学でも調査を行いました。それから刑務所でもムスリムチャプレンがどういったことを行っているのかを調査しました。そこでは共通して聖典が使われていますが、その中で非常に興味

深かったのは、それぞれの機関や組織、団体において、クルアーンの別の文章や章を見て、ハディースに描かれた預言者的生活の文章の、異なる場所を使っていました。

For example, the NHS --the National Health Services--, we found that chaplain scoring the British Health Service. When we asked them what kind of sources they use, they referred a lot to the life of the prophet about forgiveness, about pastoral care, about visiting sick, they would only use Quran when they needed to recite a bit of the Quran and they read onto the people. So, in Islam we have this tradition of reciting the Quran. And reading onto the people with the idea that the words of the Quran get passed through the breath from the Imam or the chaplain to the patient.

例えば、NHS（英国の国民健康保険を運営している機関）に勤めているムスリムチャプレンの方が使っていたのは、クルアーンにおける預言者ムハンマドの人生におけるエピソードや病を抱えた方に対するケアや癒しの場面でした。基本的には聖典としては NHS のチャプレンはクルアーンの一節を読み上げて、そのクルアーンの言葉で患者さんに聞かせることによって癒しを与えるという形で働かれていました。

In the universities, higher education, the kind of sources that really work primarily from the Quran and they were more kind of related to education pedagogy and calling people. Similarly in the prison, the prison chaplain used this is primarily related to the Quran, the general concept of forgiveness, should be given a second time for redemption.

大学においては、クルアーンの一節の中で教育などに関する部分をよく引用されていました。刑務所においてもクルアーンが使用されていましたが、なかでも例えば許しに関わるところや罪を犯した人を許して2回目のチャンスを与えるべきだというようなところでした。

Here the Muslim chaplain is talking about how chaplaincy helped him personally. I'll say chaplaincy helped him to grow as a person and he couldn't do that in the mosque, and one of the reasons why is because Imams in the most kind of restricted by employees what they can say and what they can't say on. The secular environment, the chaplain felt that he is able to flourish, so chaplaincy Imams are not only affecting but also are be affected by their environment and chaplaincy and that is opening their mind.

以下のスライドにまとめているのは、ムスリムチャプレンの方自身の言葉です。チャプレンとして働くことで、どのような影響を自分に及ぼしたのかというところをまとめたものです。これは先ほど示した四つの要素の中で、自己省察に関わる部分ですが、この方はチャプレンとしての経験を通じて人間として成長することができた、モスクの中ではあることができない自分をチャップリンとして働くことで見出すことができたということです。また、イマームとしてうまく表現することができなかつたことが、世俗的なチャプレンとして働く

ことでありのままの自分になることができたというようなことが述べられています。ですから、イマームとしての在り方に影響を及ぼされるだけではなくて、チャプレンとして働くことによって、イマームとしての自分にも影響を及ぼすということです。このような影響を見いだしたということをまとめています。

This is a case study example of how chaplains are coming in chaplaincy and their own theological positions are changing.

さて、こちらのスライドでまとめているのは事例研究の一つで、ムスリムチャプレンの方がどのようにしてチャプレンとして働くようになったのか、自分自身のイスラームとしての神学的な考え方方が変わっていった、という事例をまとめています。

IMPACT OF CHAPLAINCY

- I felt that I wasn't using my full potential in the mosque, or the mosque wasn't allowing me to use my full potential. The mosque wasn't allowing me to be who I was...there was a set model that was there for imamate, and that is the model you had to work in. If you worked beyond that model, you were doing something innovative and therefore you were challenging the established norm.

• (PRISON CHAPLAIN FROM LONDON, INTERVIEWED ON 27/03/2009)

This is an incident where I happened to be shadowing the chaplain that day and so it was very interesting for me to observe this. This is a disciplinary action taken by or disciplinary training taken by a senior Muslim chaplain who was training a junior Muslim champion was in a lot of trouble for somethings that he did and said.

こちらの事例は、私自身がチャプレンの方を実際に追跡している中で目にした事例ですので、非常に強い印象が残っています。内容は、年上のムスリムチャプレンのかたが、年下のチャプレンの方に対してトレーニングを与えていた際に言及された内容です。

CASE STUDY 1 THEOLOGY OF PLURALISM

- HAMID: YOU NEED TO HAVE HONEST REFLECTION, SOMETIMES YOU WILL BE IN SITUATIONS WHERE YOU WILL NEED TO SHAKE HANDS [WITH THE OPPOSITE SEX], FOR EXAMPLE IF SOMEONE PUTS THEIR HAND OUT. MY PERSONAL OPINION IS THAT YOU SHOULD DO IT, IT'S AN INDIVIDUAL SIN, DO TAWBA [REPENT]. YOU SHOULDN'T THINK IT'S RIGHT. BUT THERE IS A COLLECTIVE SIN AND THAT IS TO GIVE THE MESSAGE THAT ALL MUSLIM MEN ARE BIGOTED.

I call this theology of pluralism. And this is a case where a junior Muslim chaplain. There was a discussion should he remain in chaplaincy or not because of certain behaviours that he was expressing. This junior Muslim Chaplain was finally it was decided that he shouldn't be kicked out or he should call for training. In this training, what happened was the senior Muslim chaplain said; "OK, tell me, why are you here? Why are you in trouble?" Junior, Muslim Champion said, "I find it very difficult to talk to women and talk to people of the other sex because I find it difficult when women were most senior than we. They are talking down to me. I find it difficult to engage with them because normally men should be better than women. But here these women are talking down to me and I find that very difficult and I made some kind of not so nice remarks about them".

こちらの事例についてもう少し詳細にお話をします。年次が低いムスリムチャプレンのかたが問題のある行動をとってしまったので、チャプレンをやめるべきかどうかと相談していました。最終的に彼は職を辞めるようにことにはならずチャプレンとして残ることになりましたが、この時に彼よりも年次の高いチャプレンの方と相談した内容を記載しています。まず、年次の高いムスリムチャプレンの方が「なぜここに居るのか、なぜこのようなトレーニングを受けなくてはならないのか言ってください」と問い合わせました。そして、年次の低いムスリムチャプレンの方がどういった問題を抱えていたのかと言いますと、「女性とコミュニケーションをとることに問題を抱えている」と答えました。具体的には、この年次の低いムスリムチャプレンの方は自分よりも年上の女性と関わることが苦手だと言いました。なぜなら、これは自分よりも年配の女性と話しているときにどうも見下されているようを感じ、そうするとその見下されていると言う感情から不適切な言動や行動をとってしまうのだということでした。

One of the first things that the senior Muslim Chaplain said to him after he heard everything was; “you need to decide whether you are a mosque Imam or a chaplain. If you think that you're a mosque Imam, that get the hell out of here. This is what I said that this that sometimes there is a tension between the Imam doesn't understand his role in the secular environment and that causes him to be in trouble.

説明を聞いた年上のチャプレンは次のように答えました。「まず、モスクイマームになりたいのか、それともチャプレンになりたいのかを決めなさい。もし、モスクイマームでいたいのであればここから出ていきなさい」。まさにこの言葉が、先ほど触れたイマームとして求められる役割が、世俗的なチャプレンとして求められる役割と違うのであり、この違いを理解しなければ問題に直面するという良い例だと思います。

During this disciplinary reflection, the discussion went on to discuss shaking hands with the opposite gender. In Islam, there is a strict gender segregation, relationship and opposite gender should not be touching each other, so the question that was raised was that sometimes I manage is, female, they put their hands out to me to shake and I don't shake their hands because I think it's wrong. And this is one of the reasons why I got into trouble because my manager thought that I was being rude, but actually I wasn't being rude or just following my religion.

それからこの二人の議論は続き、その中で出てきたのがジェンダーに関する話題です。ご存知の通り、イスラームの教えではジェンダー間の分離や関係について明確に決められているところがあります。例えば、異性に触れてはならないという厳格な決まりがあります。これについて若いイスラームチャプレンは問題を抱えていました。具体的には、若いイスラームチャプレンの上司は女性の方で、その方が握手しようと手を出しました。しかし、若いイスラームチャプレンの彼はその手を握ろうとしませんでした。なぜなら、彼はその行為が間違っていると思ったからです。その女性の上司は、彼が握手を返さなかったことを失礼だと受けとりましたが、彼自身は失礼だと思っておらず、あくまで自身の信仰に従っただけだと認識しています。

The senior Muslim chaplain Hamid said, “You need to have honest reflection. Sometimes you will be in situations where you will need to shake hands with the opposite sex, for example if someone puts their hand out.” The chaplain says “my personal opinion is that you should do it in an individual scene. You shouldn't think it's right, but there is a collective thing and that is the give the message to all the Muslim men. This is his theology of pluralism, where he's saying look if there are two sins involved, one is small, and one is big. You do the small thing, but you protect the big. So here if you want to shake hands with the woman, that's your

personal scene. But if you don't shake hands with the woman that they will think that Islam is a bigoted religion and that's all that's worse, a sin or crime.

それに対して年上のムスリムチャプレン、ここではハミッドという名前を使っていますが、彼は次のように言いました。「まずあなたはよく自分で正直に考えてみなさい。時には異性の人と握手をしなくてはならない場合があるでしょう。私の意見では、そうした際には握手をすべきだと思います。もちろん、異性の肌に触れる行いは個人としての罪になりますので、自分自身で悔いることをしなくてはなりません。それを正当化して正しいことだと思ってはいけません。ただ、そうしないで、握手をせずにいるということは、ムスリムの男性皆が偏狭で頑固であるというようなメッセージを伝えてしまうことに繋がります。これはより大きな、集団としての罪に繋がってしまうのです。つまり、具体的にどういったことを言おうとしたのかと言いますと、このハミッドという方はチャプレンとして働くことによって、「多元主義の神学 (theology of pluralism)」、多角化された見方を持つことができるようになったということです。もちろん、異性の肌に触れることは、個人としての罪かもしれません、握手を断ればイスラームという宗教全体がネガティブなものとして見られてしまい、より大きな罪を犯すことにつながりかねない。なので、大きな罪よりも自分個人のより小さな罪を選ぶべきだとハミッド氏は言されました。

This was an example of how chaplains themselves are being affected by the environment. You wouldn't get mosque Imam doing that because chaplains are in this secular environment. They themselves are changing.

これがまさにチャプレンとしての経験や環境がイマームとしての自分、或いは神学的な考え方へ影響を及ぼしたという事例です。もちろん、イマームとして働いている一方でチャプレンとして世俗的な環境で働くことで、大きな影響を受けた事例をご紹介しました。

CASE STUDY 2

MAKING AN IMPACT ON THE MUSLIM COMMUNITY

- ...[N]O, FROM AN ISLAMIC POINT OF VIEW, FOR A MUSLIM, ISLAM IS PART OF LIFE. IT TELLS YOU A TO Z HOW TO LEAD YOUR LIFE, SO IT'S NOT A PRIVATE QUESTION, IT IS A WAY OF LIFE FOR US, AND THEREFORE, FOR YOU TO ASK THE QUESTION, THEY WOULD NOT FEEL OFFENDED, BUT THEY WOULD FEEL MORE RELAXED THAT YOU ARE ASKING THEM A QUESTION ABOUT THEIR FAITH THAT THEY CAN RELATE TO...
- [MUSLIM CHAPLAIN FROM YORKSHIRE, INTERVIEWED ON 30/01/2009].



In this case study 2, we look at how chaplains make an impact on the Muslim community.
続いて事例研究の二つ目です。これはチャプレンがムスリムコミュニティ全体に影響を及ぼした事例です。

This quotation is basically about the situation in the north of the north of England. There is a city. In this city, more than 80% of the population are Muslims.
こちらの言葉を言われた方はチャプレンの方ですが、この方がいらっしゃるのがイングランドの北にある都市で、この都市では人口の8割がムスリムの方です。

In the therapy department, they developed some posters and leaflets. To get people, especially elderly people, to do more exercise. Talking about benefits of exercise, and the benefits of exercise that they put down on those leaflets was that people should walk their dogs in the morning, and walking the dog is good for your muscles.

この地域の病院では、健康促進するためにあるパンフレットを出しました。そのパンフレットでは、高齢者のかたに運動を推奨する内容でした。運動をするといいことがあります、ということを広めるためのパンフレットでした。運動の具体例としては、朝に犬を散歩させることができますそのパンフレットの中に書かれていました。

The hospital arranged like set times for people to come together and walk their dogs. But they realized that hardly non-Muslims, actually not hardly non-Muslims took up the service, so they didn't know what was wrong. So, they went to them still chaplain, and asked him why aren't our service?

その病院では毎朝、犬と暮らしている高齢者の方が散歩して運動するサービスを提供していました。ただ、犬のお散歩をするというところにムスリムの方々は誰もいらっしゃらなか

ったのです。なぜだろうと思い病院の方々はムスリムチャプレンに尋ねました。

The Muslim chaplain, he looked at the leaflet. There's the problem. Muslims do not have dogs.

They don't keep dogs because of the theological reasons.

そこでムスリムチャプレンの方はパンフレットを見てすぐに分かりました。それは、ムスリムの方々は犬を飼わないからです。宗教上の理由で犬を誰もペットとして飼わないので、そのパンフレットに記載があったところが原因だったとすぐに分かりました。

Now obviously that was the reason why people not taking up the services. So, the physiotherapy department after encountering chaplain, how can we get the Muslim community to be involved. Physiotherapy like exercise, so the chaplain said, "we should make a leaflet". Where in this leaflet we tell the people the benefits of exercise through using the different postures in the prayer. So that Muslims, they stand up, the bow, they go into the sitting position. We should have the prayer an example of different exercise models.

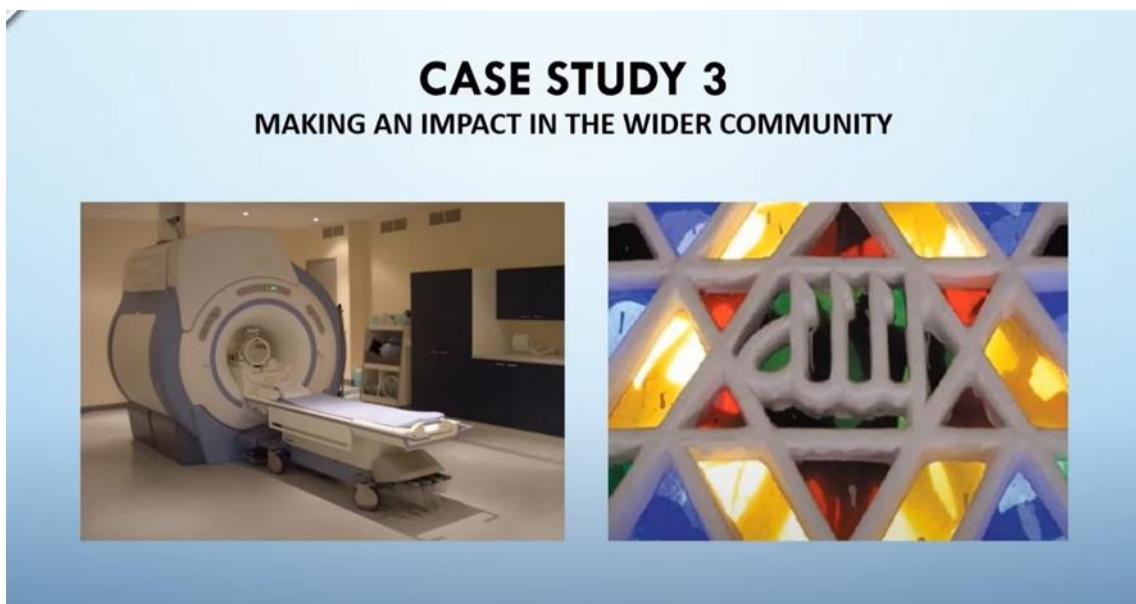
この病院の方々は、ぜひムスリムコミュニティの皆さんにも病院に来て運動していただきたいと思い、それについてチャプレンに相談しました。それに対してムスリムチャプレンのかたが助言したのは、パンフレットの内容を変更することでした。具体的には、運動をする例として、祈りの時の身体の姿勢について様々な情報を記載するのがいいのではと提案しました。祈りの姿勢として立っているポーズもあれば、お辞儀をしていたり、座っていたり体を伏せた状態もあります。このように様々な姿勢がありますので、それを使って運動の効用をパンフレットに記載するのが良いのではと提案をしました。

The physiotherapy stuff says "no, no, no, no. We can't tell people about their prayer. It was this very private, we can't. It's very invasive." The chaplain said "no, no, from an Islamic pointing, for Muslim, Islam is a part of life. It tells you A to Z out of delete your life. So, it's not a private question. It is a way of life for us and therefore for you to ask the question. They would not feel offended, but they would feel more relaxed that you're asking them to question." これに対して病院の方々は、「祈りに関して立ち入り、あるいはその質問をすることはプライベートな質問すぎるのでないか」と懸念を呈しました。しかしムスリムチャプレンの方は、そうではないと答えました。イスラーム的な観点からすれば、ムスリムの方々は ABC から Z まで、自分の人生をどう生きるのかということに関してイスラームは関わっているので、その祈りに関して質問されたとしても、それで不快になることはありませんと回答しました。

The chaplain and the physiotherapy department, they developed a pamphlet about the different prayer postures. This became so successful because people started to take up the

service. The pamphlet actually won. Best price for the best service use and the team developed issue the chaplain and the physiotherapy department they were given price of 1000 sterling pounds to go and develop the service further.

結果として、このパンフレットはムスリムの方々の祈りのポーズなどに関して掲載してまとめました。するとこのパンフレットは非常に大成功を収め、この制作に携わったチャプレンの方、あるいは病院のチームの方々が表彰を受けて 1000 スターリングポンドをもらい、病院でのサービスをさらに拡張することができるようになったという事がありました。



The final case study is related to how Muslim chaplains are making an impact, not only under Muslim community but in the wider community.

事例研究の三つ目は、ムスリムコミュニティに限らず、より広いコミュニティに対してムスリムチャプレンの方がどのような影響を及ぼしたのかというものです。

This is an example of that in the UK, if a person dies and the cause of death is not recognized or known, then, the coroner and the law see that there needs to be a postmortem examination for the body is opened up and to see the cause of death. Now Muslims don't like this because it is violating the diseased or the right of the disease, so people should be put in straight away rather than any medical intervention cutting them up and looking inside them.

具体例のお話をしましょう。まず、英国においては、死因が不明だった際には検死を行う決まりがあります。ただ、ムスリムの方々からしてみると、これはあまり好ましくなく、死者の権利を冒涜していると見られかねませんので、死亡した後は検死などをせずにすぐに埋葬することが望ましいと考えられています。

Muslim chaplains started to research whether they can be alternatives, invasive postmortem. And they found that thirty years prior to them looking into the issue, the Jewish community in the UK were using MRI scans to do not invasive postmortem. And so, then Muslim chaplain started to talk with the Jewish community to how to make this.

これに対して何とかできないかというところで、ムスリムチャプレンの方が調査を行ない、身体を切り開く検死の代わりの代替策を調べました。すると、その30年ほど前の段階でユダヤ人コミュニティの方では遺体を切り開くことなく検死を行う手法としてMRIスキャンを活用していた事例にたどり着きました。そこでムスリムチャプレンの方々はイギリスにおけるユダヤ人コミュニティの方々に連絡を取って、どういった手法なのかを確認しました。

This was a very beautiful example of interface working together with normally Jews and Muslims are not getting along, but here this is a very good example where they got along, and they learn from each other. There's a lot of meetings, Muslims learn everything from the Jewish community. And then, went ahead and implemented in the own hospitals.

ここではムスリムチャプレンの方々がお互いの集団を橋渡しする役割を果たしたわけです。一般論で申し上げますと、ユダヤ人とムスリムの方々はそれほど仲が良いわけではありません。しかし、この話に限っては非常にお互い協力をして何度も会合を行ってお互いから学ぶことを行ないました。それによって、ムスリムの方々の側で何をすべきなのかというところを学んで、実際に病院で代替策を取れるようになりました。

The difference between what the Jews were doing 30 years ago and what Muslims have started to now is that this MRI exemption was only for Jews within the Jewish community. The Muslims came in. Then decided to open it up for everyone. So not only Muslims, but for everyone. However, the service isn't free. It costs about 3000 pounds. And if the coroner feels that the conclusion is not decisive, they can still do invasive postmortem, it isn't stopped. So, this is the most in contribution to the wider community.

ここでどのような結果になっているかといいますと、30年前の段階でこのMRIスキャンを行って検証を行うのは、ユダヤ人コミュニティに限られたことでした。今回、ムスリムも使うことができないかと働きかけたことで、このMRIの選択肢がユダヤ人やムスリムに限らずコミュニティ全体、誰もがこのMRIを使って検証を行う対応ができるようになりました。つまり、コミュニティに対して新たな非侵襲性の検査が開かれたということです。もちろん、無料ではなく、3000ポンドかかります。また、この検査の中で検死官が結果に納得しない場合には、遺体を開腹する形で対応することもあります。しかし、ムスリムチャプレンの貢献でコミュニティ全体に対してより大きな結果をもたらすことができた一例としてお話を

いたしました。

Thank you very much. That was exactly 85 minutes. I'll stop and take some question and answer.

ちょうど 85 分が過ぎましたので私のプレゼンテーションは以上となります。ご質問に答えさせていただきます。

葛西：ありがとうございます。Perfect lecture, exciting lecture! We have learned how Muslim chaplain practice indicatable and harvestable introduce new interpretation in not only Muslim community but also very broad range of people's community in England. イギリスの社会も変えるような大きな実践を大変細かく説明していただいて、野間口さんがかなり細やかに訳して下さったので私たちはいろいろ学ぶことができました。

本日は 9 個の質問をみなさまからいただいています。マンスール先生にはこれらすべてを事前にお送りしていますのでそれにお答えいただく形で進めていきます。それではよろしくお願ひいたします。

Mansur: The audience interested in the comparison of Muslim chaplains and Christian chaplains. Obviously, there's the difference, which is that the Muslim chaplain as far as rituals is concerned will do Muslim rituals and Christian chaplains will do Christian rituals. So that's the obvious difference. Beyond that, I think that there are certain things that twisting chaplains, certain nuances that Christian chaplains won't be able to understand even though these may be requested. They understand the surface, but they won't be able to understand the nuances. For example, halal food.

最初に、ムスリムチャプレンとクリスチャンの違いに関してご質問をいただいておりますのでお答えいたします。分かりやすい違いとしましては、ムスリムとクリスチャンということで、それぞれのチャプレンとして行う儀礼が異なるというところが一つの大きな違いです。それに加えて、細かいニュアンスが違います。クリスチャンのチャプレンと比較した際、表層のレベルでは理解しているかもしれないけれども、細かいニュアンスのところでは違った例として伝えることになります。例えばハラール対応に関しては、クリスチャンのチャプレンと異なるところです。こうしたニュアンスレベルまでムスリムチャプレンを伝えていかなくてはならないところが差異として挙げられるかと思います。

But also, all chaplains in an institution have to generic roles. So, normally the chaplains will say that I am not here for any religion. I'm here for everyone. And they will generally go around to see everyone and anyone from any religion. But if there are specific religious needs, then,

the Christian chaplain might refer to the Muslim chaplain for the Muslim needs and the Muslim chaplain might refer to the Christian chaplain for the Christian needs.

基本的には、ある機関に属するチャプレンの方は、全体に対してチャプレンとしての役割を果たす必要があるので、特定の宗教のためだけではなくて、その組織にいる皆のためにチャプレンとして貢献することが求められます。ですので、分け隔てなくどの信徒に対しても同じようにチャプレンとしてのサービスを提供します。ただ、場合によっては細かいニュアンス、あるいはそれぞれの信徒によって、要望やニーズが異なる部分もあるかもしれません。こうした場合にはクリスチャンのチャプレンのほうからムスリムのチャプレンに確認をしたり、ケアをお願いしたりすることがあります。その逆にムスリムチャプレンの方からクリスチャンチャプレンの方にお願いをして、キリスト教上のニーズや要望に応えてもらうということも対応としてあるかと思います。

I have an example which is a normally exception, not a rule. Once in the prison services, on the Sunday, the Catholic Christian prisoners were brought into the Chapel. Remember, in prison services, the movement of prisoners, has to be very well coordinated- security guards, prison guards and reception have to be well coordinated. Then, they brought into the Chapel, not the Kostic Priest, there was an accident on the road, and he couldn't make it to the Chapel on time for this Sunday service. Now it will be impossible to keep all those prisoners they're into the Chapel. It's dangerous to keep all prisoners without chaplain. But also, they don't have the mechanism now to take them back because the next movement is after an hour. So, what does he do? Muslim chaplain, he jumped in and he started doing the Sunday service, so, but that's a very rare example.

もう一つ具体例としてお話をしたいことがあります。こちらは例外的なエピソードとして覚えていただければと思います。ある時、刑務所において、クリスチャンの方々が日曜礼拝でチャペルに集まるタイミングがありました。服役されている方々は非常にスケジュールがきっちりと定められたうえで、動きも行動も監視されたうえで、警護などもしっかりと付けてチャペルに移動しました。ただ、その際に日曜礼拝に出るはずだった牧師がどうしても時間通りに到着することができなくなってしまいました。そうすると、服役されている方をチャペルの中に待たせておくことは危険なのでできません。あるいは囚人の方々を一気に部屋に戻すという仕組みもなく、もしそのようなことをすれば大変なことになるとわかつていました。そこでどうしたのかというと、ムスリムチャプレンの方が入っていって、代わりに日常礼拝に対応した事例がありました。

The next question is, “your suggestions for Muslim chaplain candidacy in Japan where Muslims are a minority?” I don't know the landscape of Japan or the Muslim religious landscape of Japan, so I can't answer that question. However, there is a student of mine here

today. Her name is Amanda Morris and she teaches Japanese on Cardiff University. I think she converted in Japan as well and she's lived in Japan for a while. Can I ask her to answer that question? She knows the Muslim landscape in Japan. Is it OK?

では、次の質問に移ります。日本におけるムスリムチャプレンとして、日本においてイスラームはまだマイノリティですので、こうしたなかでムスリムチャプレンとしてどういったことをすべきなのか、アドバイスがあれば、というご質問を頂いています。この点に関しては、私は日本におけるムスリムの方々の背景に詳しくありませんので、私の方から直接お答えすることができません。ただ、本日参加されている中にアマンダ・モリスさんがいます。彼女はカーディフ大学で日本語を教えられていて、日本に帰化されている方ですので、日本の事情を把握されているアマンダの方からお答えしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

Amanda: I'm going to answer this in English if it's alright, because although I can speak Japanese but religious terminology and things are out of my area of expertise, if that's all right. The question was about who should act as chaplains within the Japanese Muslim community. Recently I was able to perform Umrah and there was a group of Muslim converts on my group as well Mashallah, think about 30 of them Mashallah, men and women. And our discussions exposed to me that although Mashallah of the numbers of Muslims are increasing in Japan. The numbers of people who have formal Islamic qualifications is still very few, very little. And moreover, the Imams, the men and women who are there as religious leaders, are not able to speak the local language. They don't speak Japanese. So, I believe what would be important for the community going forward, inshallah will be to invest for the Muslim community in Japan to invest in Japanese native speakers. Investing in their religious education. If they were to go abroad or even nowadays, we can do these things on Zoom. In order to bring them up to a level where they can act as chaplains. And there are some. There are some, for example, in Tokyo Jamia, in the Turkish mosque, in Tokyo there are some. There are a couple of brothers and sisters who before the civil war broke out in Syria, they were studying in Damascus the traditional sciences, and they have been carrying out this role. And I think that these are the people who are best placed because they understand they speak Arabic, because they've learned Arabic. Some of them speak other languages such as Urdu or Turkish, so they have the cultural knowledge to be able to deal with people from different cultures, different Muslim countries, cultures as well, but they also have the understanding of the Japanese. Native culture and language, which is so important when you're sort of struggling to different communities and trying to encourage the communication between them. When the chaplaincy started, when the Muslim chaplaincy as a thing started in the UK, it really came into its own with UK born Muslims who spoke English fluently and understood the British

culture as well as the Islamic culture. That's when it really was coming into its own and I think in Japan we need to see this coming out from now as well as the population increases.

アマンダ：頂いたご質問に関してですが、これは日本においてどなたがムスリムチャプレンとして日本のムスリムのコミュニティの中でその役割を果たしていくべきであるかというものです。この点に関してお話をていきたいと思います。私のほうでムスリム会社の男性も女性も含め30名ほどの方々と日本の状況についてお話をしていました。日本においては確かにムスリムの人口は増加していますが、イスラームの教育トレーニングを正式に受けた方の数は、まだ日本では少数であるのが現状と聞いています。また、宗教的指導者としてのイマーム、男性女性に関わらずですが、この宗教的指導者イマームとしていらっしゃる方は、日本語が母語ではなく日本語を流暢に喋ることができないというのが現状です。ですので、日本において、このムスリムチャプレンとしての役割を果たすべきなのかということに関する私の意見を申し上げますと、日本人の、日本語を母語とするネイティブスピーカーの方に対してムスリムコミュニティが投資をしてイスラームとしての教育訓練を受けてもらうというのが一つの案ではないかと思います。実際に、日本語を母語とする方々が海外に行ってトレーニングを受けるということもあるかもしれません。場合によっては、オンラインのズームを使うことも一つの案かもしれません。非常に数多くの、こうしたことに対応できる方を作っていくのが重要かと思っています。もちろん、現時点でもそういった方々がいらっしゃると思っておりまして、東京ジャーミイにいらっしゃる方のなかには日本語を母語としながらも、イスラームに関する知見の深い方がたくさんいらっしゃいますし、あるいはシリア内戦が起こった際にダマスカスでかつて勉強されて当地にいた方などもいらっしゃいます。そういう方々は日本語を母語としながらも、イスラームに関して充分な知見を持っていらっしゃるトレーニングを受けうる方々であり、人によってはアラビア語やウルドゥー語も話すことができる方がいらっしゃいますので、そうした方々がチャプレンとなるのも良いかと思います。日本語を母語としていて、イスラームの文化に関して深く理解をしている方々、そして異なる文化や異なる国を理解し、その二つの間の橋渡しをできるような人材を作っていく、そうした方々にムスリムチャプレンとなっていただくというのが良いのではないかと思います。イギリスはムスリムチャプレンが始まった場所と言えるかもしれません。これがうまくいった背景には、イギリスで生まれ育ったムスリムの方々が英語を母語としながら、イギリス文化とイスラームの文化の二つに精通しながら、チャプレンとしての役割を果たしていたというところが、深くイギリスにムスリムチャプレンが根付いた背景ではないかと私は思っておりますので、日本においても同じような形が良いのではないかと思っています。

Mansur: The next question is, "is the UK Muslim chaplains, do they mainly care for people of the original country? In Japan, all the Muslims are under a big umbrella category as one still community. It is divided as many sub communities of their original reaches and countries. Is

it also the true in the case of UK chaplain?" I know the UK Muslim chaplains do not mainly care for people of original country. Adjusted the case, sometimes what we have is denominational differences. For example, you may have they say the prison population the inhabitants, the prisoners, are all one denomination of Islam. And the chaplain might be of another denomination. And sometimes the prisoners might put in a complaint. So, this chaplain and I will kind of theology too much. We need them to be changed. Then put the complaint, the moving changed. But no, we don't have these kind of regional, country by country differences.

マンスール：続いてのご質問は、イギリスのムスリムチャプレンにおいては、それぞれのチャプレンの方は、自身の出身国あるいは祖国にあたる方が、チャプレンとしてのサービスを提供するのでしょうか。日本においては、ムスリムコミュニティ全体として、ムスリムコミュニティはありますが、その下に下部集団のような形で、それぞれの祖国に即したコミュニティが形成されていますが、イギリスではどうでしょうか？という質問です。イギリスにおけるムスリムチャプレンのサービスの提供の仕方として、国ごと、祖国ごとにそれぞれ異なった形でケアを提供する、それぞれ対応する祖国のチャプレンが提供することはありません。こうした形は特になく、ムスリムチャプレンとしてムスリムに対してサービスを提供しています。ただ、場合によっては宗派の違いが持ち上がってくる場合があります。例えば、服役されている方がイスラームのある宗派で、そのチャプレンの方がまた別の宗派だったとすると、場合によってはその服役されている方のほうから自分と宗派が違うと言ってチャプレンを変えて欲しいという要望が出る場合もあります。こうした形の違いだけで、祖国に対応する形で、それぞれ異なるチャプレンが対応するというわけではありません。

Thank you. Those are all the questions that I have.

私の手元にある質問は以上です。

葛西：それでは、みなさんから少しご質問をいただければと思います。ちょうどアマンダさんが先ほどご説明くださった質問の中に、日本でムスリムチャプレンになる方を育てていくというお話があったと思います。今、こうした勉強をアメリカでおられるアミーン・クレシさんが今日来ているかと思いますが、クレシさん質問、あるいはコメントいただけませんか。

Talked about the how we cannot term from chaplains in Japan. In related to that, I think Qureshi-san can give us an input who is studying in the United States, and I appreciate your comment, Qureshi-san.

Amin Qureshi: Thank you. I'm Amin Qureshi, Currently, studying at Harvard Divinity School. I am interested in chaplaincy. I think Professor Kasai-sensei has mentioned in the comments

section, it's the questions that I had. One of them was could you please, from the information we have gathered in Islamic and non-Islamic settings in the UK and beyond throughout the years, share practical advice for those wanting to serve the Japanese mission community. Muslim chaplain positions are non-existent in the country, and it may take decades until chaplains can make a living out of this profession. How did the British community cope with this issue? So, kind of practical financial aspect of things, how do they at least in the initial stages were able to flourish despite the struggles with nonsense.

アミーン・クレシ：ありがとうございます。現在、ハーバード大学神学大学院で学んでいます。チャップレンシーに興味があります。葛西先生がコメントでおっしゃっていたと思いますが、私が抱いた疑問を申し上げます。そのひとつは、長年にわたって英国内外のイスラーム・非イスラームの現場で収集した情報から、日本でイスラームを伝える団体で奉職したいと考えている人たちへの実践的なアドバイスを教えていただけないかということでした。ムスリムチャップレンの職は国内には存在せず、チャップレンがこの職業で生計を立てられるようになるまでには数十年かかるかもしれません。英国のコミュニティはこの問題にどのように対処したのでしょうか？つまり、現実的な経済的な面では、少なくとも初期の段階では、困りごとに苦労しながらも、どのようにして運営できる現状にいたったのでしょうか。

Mansur: Thank you very much, Amin. What are you studying at Harvard?

マンスール：アミーン、ありがとうございます。ハーバードでは何を勉強しているのですか？

Amin: Also, currently focus right now is comparative studies, understanding different religions and also looking from connect sentence, sexuality and gender around it in Western contexts, but I'm also starting to intern under the Muslim chaplain at Harvard. And in communication or have been in communication with the people in that field in this country as well.

アミーン：今は比較宗教学で、さまざまな宗教を理解することと、西洋の文脈におけるセクシュアリティやジェンダーにまつわるつながりを研究しています。また、ハーバードのイスラーム教チャップレンの下でインターンを始めています。

Mansur: Thank you very much. If I was to take you from the end of the question, which is how Muslim community cope with this issue related to help-pay. Then, you should know that other than the prison services, and not all present chaplains, hospitals and universities and those of the major hospital universal Christians are the major kind of chaplaincies. Their old voluntary bases, most of them. So, university chaplains do not get paid at full. Unless you are a managing chaplain. That takes decades to get you manage to chaplain. The hospital chaplain

might be hard time. Ultimately be paid for the travel expenses. You probably won't be able to make a living. I'm talking about UK, I don't know anywhere else, in the UK by becoming a hospital chaplain or a university chaplain, unless you're quite senior like so Imam, he is the head chaplain for every single hospital in London, Muslim and non-Muslim. He's in a very high salary. But he's been in that position for 25 years, taking 25 years to get there. That's the first, as far as the profession is concerned. Think as Amanda mentioned that the trajectory that we have in the UK. I mean we started getting chaplains in bucking the 1980s.

ご質問として、チャプレンで生計を立てる、収入を得る術があるのかというところですが、刑務所、病院、大学は、基本的にチャプレンとして働くことができますが、基本的にはボランティアベースになっています。大学ですと支払を受けていませんし、非常に役職の高いチャプレンでほかのチャプレンを監督する立場にならないと、生計を立てることは難しいと思います。それにもかなり時間がかかると思っていただければと思います。病院においては、パートタイムで対応されているか、あるいは交通費が出るかもしれません、そのぐらいです。少なくともイギリスにおいてはチャプレンとして生計を立てることは極めて難しいです。私の知っている方のなかには病院のチャプレン長の方がいて、その方はムスリムチャプレンか否かにかかわらず、ロンドン市内の全ての病院のチャプレンを取りまとめる役職をされています。彼はそれなりのお金を稼いでいると聞いていますが、その立場になるにも25年ぐらいかかったと聞いておりますので、チャプレンだけで生計を立てるのは難しいというのがお答えです。

In the UK we have the National Secular Society. The National Secular Society are always pushing back and saying we need more nurses in the hospitals, why are we paying these chaplains? Normally Christian chaplains are being paid by the churches. The National Secular Society are saying that we're not against chaplains, but UK is a secular country, and the hospital is a circular environment. We shouldn't use public resources on religious causes. If Muslims want chaplains that the mosque should pay for it. Unfortunately, no mosque has mobilized in the UK to pay for chaplains, so in a way it's precarious. The prison chaplains have very good pay. Some of them are on a quote over 1000 pounds pension. The prison champions are saturated.

病院に関しては、特にイギリス世俗協会（ナショナルセキュラーソサエティ）が制度社会のほうで、チャプレンよりも看護師を増やした方が良いとしています。クリスチャンのチャプレンに関して、彼らは教会からお金がでます。イギリス世俗協会はムスリムチャプレンそれ自体に反対しているわけではなく、イギリスはイスラームを国是とする国ではなく、病院も世俗の場なので、ええ、宗教的なものに公費を出すのではなく、むしろモスクがお金を出すべきだと主張しています。現状、イギリスにおいてどこかのモスクがお金を出してチャプレンを手配していることは無いかと思いますので、非常に不安定な状況というのが実情です。

ただ、刑務所に関しては例外で、刑務所で働くチャプレンは非常に高いお金を得ることができます。ですので、非常に人気が高い仕事で、人が溢れてしまっているところがあります。

On a more practical level, Muslim chaplains need to have some Islamic knowledge. They don't need to be professors. I don't need to be trained in Imams 100% training, but they need to have some basic understanding. They also need to have some training related to clinical pastoral education. The chaplain in the United States all have to basically to CPE, clinical, pastoral education, maybe some kind of counselling, qualifications, not necessarily degree, but something to do with those kinds of human pastoral element and then make themselves in disposable, make themselves volunteers. Always has to be a voluntary position in the beginning, and then, themselves be disposable, meaning that without me the institution is toggle function. At once, the institution can see the benefit, that a chaplain brings to the institutions work as a whole. There might be people in. That's how a lot of the chaplain in the UK became paid positions.

もう少し実務的なお話しをしますと、ムスリムチャプレンの方は一定の知識を持つ必要があります。必ずしもイマームとしてのトレーニング、教育を受けている必要はありませんが、基本的にイスラームに関しての知識を理解していただく必要もありますし、パストラル・ケアに関するトレーニングも必要です。ただ、いずれにしてもチャプレンの方々がボランティアからはじめて、やがて組織や機関で働く中で欠かせない存在になっていく、というような形で身を立てていくことが多いかと思います。その組織のほうで、ムスリムチャプレンの存在が欠かせないということになった際には、多くのチャプレンの方々が自分の役割を、お金を受け取る形で確保して行くということがイギリスで起こってきたのだと認識しています。

To answer your second question, what should Muslims be classically trained in Islamic seminaries as opposed to having an allergy for example, being mindful of when taking on chaplain like positions. Would you show some examples of difficulty for Muslim chaplain and spiritual care? So, as I think I've given you quite a bit of chaplain examples, I will give you, I'm a classically trained Islamic seminary and my training in Islamic seminary, although gave me most of the Islamic knowledge that is required, there's a knowledge base. But it didn't give me the practical experience because studying classical text doesn't prepare you for the physical pain. You know that people are going through. Even if you're talking about the concept of evil and theodicy, that's all abstract.

もう一つご質問をしていただいているのは、イスラームの教育トレーニングを受けた方がチャプレンの役割を果たす際に注意すべき点、留意すべき点はどういったところでしょうか、というものです。私自身の経験に基づきお話をしたい点は、イスラームに関するトレーニング教育は、あくまで知識ベースのことで、抽象的なところが多いと言うところです。実

務的な経験は、実際に経験しないと得ることができないことがあります。聖典などのカリキュラムに基づいて学習しても、それは肉体的な痛みを実感できるものではありません。それにどのように対応すればいいのかというの経験をしなくては分からぬというところがあります。この点に関して、私自身の経験に基づいてお話をできればと思います。

If I was to give you an example of my own practice. When I was researching for my book, understanding Muslim chaplaincy. I shadowed a hospital chaplain, and we went to visit a patient in intensive care. And this patient was an elderly patient, and he was crying. And when he saw us, he started crying. He asked us to pray for him. Then, he said that I don't mind the pain because I know that code is cognition me. Or something that I get to see you. I don't mind the pain. But what I can't tolerate? Is that the nurses have to take me to the bathroom, they have to change me, they have to wash me, touch my private pause and thus degrading. And that's something that I can tolerate. Or rather us God to kill me than this degradation. This was situation which was very difficult for me to see a man, break down like a baby. And I'm trying no amount to see a logical training prepared before last scenario.

私自身が経験したこととしましては、私が書籍を執筆するために調査をしていた時のことです。非常に印象に残っています。ある病院に勤められているチャプレンの方を追跡している際に ICU の患者さんとお話する機会がありました。高齢者の患者さんで、IC の中いましたが、子供のように泣いていて、私のために祈ってくれとお願いをされました。その方が言っていたことは、痛みに関しては耐えられる、と。私が行ったことに対して神が罰を出しているのだろうということで、痛みについては気にしない。けれども、私が耐えられないのは、看護師が私をトイレに連れて行ったり、私を洗ったり私の股間などを洗ったり触られたりするということが非常に耐えがたい経験だと述べていました。こうしたことを言って子供のように泣いていたのを見て、いかに神学的、宗教的なトレーニングや研究をしても、その知識からこうした状況にどうように対処すればいいのかについては全く答えが出ないことだと強く実感しました。私は感情が動かされてしまって、そこから外に出なくてはなりませんでした。

As far as the question related to LGBTQ plus, in a way it's a very difficult question, but is a very simple question. And the reason why is because when I chaplain comes into chaplaincy, the chaplain knows what they're coming into, a secular environment they are coming into. That's #1 is not the mosque. If they cannot tell the difference between those and they will have problems in their role. That's point #1. Point #2 is that there is the law. The law is that you can know is pretty clear on discrimination, racism and gender. And the Muslim chaplain, when he comes into chaplaincy, he needs to know the law. And cannot break the law. It's breaking the law, that's illegal, you will be fired. So, need to know the limitation, need to law

what he's getting himself into. And third thing is, which I mentioned that the Muslim chaplain also has a responsibility to themselves if they have a principled religious opposition to that. Then, they can decline to recently say I'm not competent. To advise you on that but I can, there will be in the chaplaincy team. Other people who might be LGBT they can say, but you can go through, that person and guide them and that's how wrongly the chaplains are dealing with the situation they know the law, they know what they can getting themselves into an even personally if they're not able to deal with it, they can refer them to other people can deal with situation. It's a very practical solution.

それから、質問の後半で LGBTQ+ に関するものがありました。イギリスにおけるムスリムチャプレンの方が対応される中で、LGBTQ+の方々に関連して、こんな難しい問題などありますか、というところを質問としていただいているので、お答えします。非常に難しい問題ではありますけれども、同時に、対応すべきことは非常にシンプルでもあるかなと思います。これには三つの要素があると思っていて、一つ目は、まずはそのイギリスにおいて、チャプレンの方々が自分はもう今チャプレンとして、モスクではなくて、世俗的な場で働いていることを自覚すべきだというところです。その自覚に基づいてチャプレンとして仕事をしているわけですから、その違いを認識しなくてはならないと思います。モスクとは違うのだということを、まずチャプレン自身が意識をしなくてはいけないと思います。二つ目は法律です。英国法ではっきりとジェンダーに基づいた差別をしてはいけないと禁じられていますので、ムスリムチャプレンも法に基づいて対応しなくてはなりません。法に則った上でチャプレンとしての責任も果たさなくてはならないというところが二点目です。そして三つ目は、先ほどお話をしましたけれども、ムスリムとして自分自身と向き合う必要があるということです。これはどういうことかというと、もし自分が宗教的な信仰の根本的な主義として賛同できない、どうしても反対してしまうという気持ちがあるのであれば、それはほかのチャプレンに任せるべきだと思います。LGBTQ+の方に賛同するチャプレンの方々もいらっしゃいますので、そういった方々にお願いをして先導してもらう、自分自身と向き合った際にそれが必要であれば、そういった対応を取るべきだと思います。なので、三つの要素として、モスクではなく世俗の場にいるのだということを理解すること、法律を守らなくてはならないということ、そして自分自身と向き合って対応する必要があること、この三つを意識すべきかと思います。

I would just like to take one more question. So, what is the most challenging problem of Muslim chaplaincy in the UK. There are number of challenges. The most important one for the health service and also universities, is pay and funding. At the moment people have to do this a voluntary, the pay is better in the health services. But it is hardly any pay in the universities. That the primary problem is people need to eat and they need to be paid for their time. There's no funding available. The second problem is that the Central UK government,

not local governments, the Central UK government is very suspicious of Muslims and very suspicious of students who are religious. And they tell teachers, professors and chaplains to spy on distance. And if they think that anything is out of place to report them to preventing violent extremism which is to the woman's, kind of securitization. The problem with that is that chaplains are not trained. There's no funding to train them to recognize how to recognize extremism. And yet, they are told to do that. So, one is that there is they don't have salary and secondly, they told to do something but there's no funding to train them.

恐れ入りますが時間の都合上、次の質問で最後にさせていただければと思います。最後のご質問ですけれども、イギリスにおけるチャプレンに関して大きな課題は何でしょうかというものです。もちろん、課題としてはいくつかありますけれども、ここであげたいのは、資金に関する部分です。病院や大学においてチャプレンは働いていますが、ボランティアベースがまだまだ多いという現状があります。病院においてはまだ少し賃金は高いですが、大学などですと支払はボランティアベースがほとんどです。人々はご飯を食べて行かなくてはならない、生計を立てていかなくてはならないという中で、支払賃金が充分に無いというところが大きな課題となっているかと思います。それが一つ目です。二つ目は、イギリスにおける地方政府ではなく中央政府側の問題ですが、イギリスの中央政府がムスリムに対して疑いの目を持っていることです。特に信心深い学生に対して、過激主義に走ってしまうのではないかということで、大学やチャプレンや教授に対して監督しなさいというようなことを言ってくるわけです。しかし、チャプレンとしては、生徒が過激主義に走っているかどうかを特定するトレーニング訓練を受けているわけではありません。このように過激主義に走らないようなところまで対応を求められることは、チャプレンの役目から外れることまで要求されるということです。ですので、課題は多くありますけれども、ひとつとしては賃金が充分に得られづらいというところ、そして充分に対応できないようなところも求められることがイギリスにおけるチャプレンの課題かと思います。

Finally, into prison services, where the pay is very good, very good pay. The problem of the chaplain has depending on who is the Minister of Justice. Chaplains are seen as a problem. All chaplains are seen as a solution to the problem, depending on who the minister is, depending what ministers understanding of Islam and the Imam is. Sometimes they blame chaplains for breeding extremism in prison, sometimes they basically say that they are solution to extremism. So, the prison services have its own problems.

それから最後のところになりますが、刑務所においては、先ほど申し上げましたように、チャプレンに対する賃金はかなり良いのですが、ここでは英国司法省の長官が誰なのかというところによって、チャプレンがどう見られるのが変わっていきます。どういうことかというと、チャプレンが問題の原因だと思われる場合もあれば、チャプレンは問題に対する解決策だと見られる場合もありますが、これはその司法長官の認識や理解によってどちらに転

ぶかということになります。司法長官のイスラームやイマームに関する理解が浅はかだとチャプレンが刑務所において過激主義を促進していると見るようなこともあります。ただ、司法長官の見方が変われば、あくまでチャプレンは過激主義に対応するための解決策なのだと見られることもあります。司法長官が誰か、どのような考えを持っているのかによっても少し状況が変わってくることは、刑務所に関する事情としてあります。

Thank you very much. I think spoken by a bit, our interpreter has also spoken quite a bit, must be tired now, so I think we'll leave it there. Is it OK, Professor Kasai?

私も話し過ぎてしましました。ちょっと通訳の方も話しそぎてしまって、疲れきってしまっているようです。もしよろしければ以上とさせていただければと思います。葛西先生いかがでしょうか。

葛西：Dr. Mansur, Thank you so much. そして通訳の野間口さんもどうもありがとうございました。私が今回マンスール先生にお願いをしましたのは、日本よりもいろいろな経験をイギリスで行っている事例をお聞かせくださいということでした。先ほどアミーンさんとのやり取りの中で、様々な問題が数多く残る中でやっているということを改めて学ばせていただきました。本日は皆さまお疲れ様でした。ありがとうございました。

I would also like to thank Mr. Nomaguchi for his interpretation. What I asked Dr. Mansour to do this time was to share with us some of the experiences he has had in the U.K., which are more varied than those in Japan. In the exchange I just had with Mr. Amin, I learned once again that they are doing what they are doing in the midst of many problems that remain. Thank you all audience here for your serious attention today. Thank you very much.

Translated with DeepL